

教務だより

2017年10月号
茗溪塾

茗溪塾教務部 03-3659-8638

受験期の親の役割

茗溪塾塾長 宇野雅春

いよいよ受験が近づいてくるという印象が、親にはあるようです。とはいえ親それぞれの置かれている立場、性格、信条、周りの環境等で親の対応は様々です。

目標に届いていない子供にイライラする親の場合は、もう時間がないと焦るあまりに、子供自身というよりは、指導の問題をあれこれ思いまどう傾向が強く、これは、次々と泥沼化します。出発点が親の理想だったり、兄姉のレベルだったりで本人の意志や成長段階とは全く関係なく設定された目標のために、常に子供は叱責と嘲笑のターゲットになります。延々とやらされ勉強が続き、子供は究極の勉強嫌いになってしまいます。

だからと言って、受験は本人の問題と完全に割り切り、まったく無関心というのでは、子供自身が何のために勉強しているのかという充実感が持てなくなります。親に認められるということは、子供にとっては大切なことだからです。

中学受験、高校受験、大学受験とどの受験にも親が無関心でいられるわけではありません。ただ、上に進むほど、親は達観してきます。周りがとやかく言っても何も始まらない。子どもに任せるしかない…。というように、です。口を出せば、イライラされるし、いろいろ立ち入っても、自分が思った通りにはならないし…。

長く受験指導をやってきて、様々な親御さんと接触してきましたが、最近やっと親はこうしたほうがいいのかということに思いあたりました。自分自身が子育てが終わっているということもありますが、決して「成功している」といえるものではなく、反省もひとしおの上で、原則として親はこうするべきではないか？ということなのです。

一言でいうと、受験に対する親自身の真剣な取り組みを子供にみせるということなのです。受験は基本的には、子供自身の問題です。土足で踏み込んであしる、こうしろでは、子供の心に影を落としこそすれ、やる気を引き出すことはできません。勉強は塾に任せてもいいのです。必要なのは、2つです。①**リーダーシップ** 方向を示してあげたり、相談にのってあげたり、理解してあげたりということなのです。②**家族としての役割** 受験と生活の調整ということがあると思うのです。受験を家族生活のどこに位置づけるのか、そのうえで、何を優先していくのかということなのです。また子供一人一人の性格や適性の違いがありますから、余裕を持って見守れるためには親が調整する必要が出てきます。

子供は親を見ていないようで、しっかり見ています。口で言っていることと実際していることのギャップには、特に敏感です。これは子供にはりついたり、子供を過保護にいたわるようなこととは違います。忙しくても可能な限りで**親の「姿勢」を見せる**だけでいいのです。中学受験では特に説明会、個別面談、模試への引率、子供への動機づけなどの中で、親が真剣に考えて、親も頑張っているということを押付けでなく、自然に感じさせることが重要だと思えます。それが子供を勉強に向かわせる原動力になるはずなのです。